

## 第35回日本プラセンタ医学会大会開催にあたって

# 多様化する医療ニーズに応えるプラセンタの可能性

大会実行委員長 稗田 圭一郎  
医) 五常会 鶴巻メンタルクリニック 院長

本学会は、コロナによる中断はあったものの、発足より35回を数えるようになりました。この会の特徴は、専門の異なる様々な方が参加していることですが、それぞれが専門分野を持ちながらプラセンタと言う共通項でつながっています。会の雰囲気も堅苦しくなくアットホームで和やかなのは、なぜか？それは臨床を大切にされているからだと思います。疾患としてだけではなく患者さんを1人の人間とみて、その生活の質の向上を考えたときにプラセンタに行き着いたのではないかと思います。私自身、この学会にいつも楽しんで参加しています。臨床を行う上で患者さんにフィードバックできるネタがたくさんあるからです。今回も様々な科の先生方からの症例報告があります。明日からの臨床の糧になる会になれば幸いです。



今回の特別講演は、株式会社ヘルシーパス代表取締役田村忠司さんに「医療機関の幸せなサプリメント活用法」、招待公演は、女子医大学附属足立医療センター心療・精神科教授の大坪天平先生に「女性特有のうつにどう対応するか-PMS、PMDD、PME、更年期障害を含む-」をお願いしています。どちらもこれからの医療機関の経営や日々の臨床において有益なお話になると思います。また今回は、動画でのご発表となりますが、ロシアから国立モスクワ医科歯科大学のリオニード・ポリソヴィチ・ラゼブニク教授の「Possibilities of iron modulation by human placental hydrolysate」のご発表があります。ロシアはプラセンタ療法が盛んで、前回私が大会実行委員長を務めさせていただいた第15回大会に初めてロシアから発表がありましたので、これも何かのご縁とっております。

何事も企画は、主催者が楽しくなければ参加者は楽しくないと思っております。今回も私自身が楽しめる企画を組みました。私はプラセンタ療法を始めて27年になりますが、患者さんにも必ず「プラセンタを楽しんでください」と話しています。今大会に参加していただく皆様に1日を通して楽しんでいただければと思っております。

1人でも多くのご参加をお待ちしています。